

企画・戦略委員会 白書分科会 活動報告

Beyond 5G推進コンソーシアム
白書分科会 主査
NTTドコモ 中村 武宏

2023年3月13日

- 2022年5月 ITU-R WP5D会合への寄書草案作成対応
- 2022年6月 周波数作業班の新設
- 2022年9月 白書1.5版 公開
- 2023年3月 白書2.0版 公開

企画・戦略委員会

白書分科会

主査：中村（NTTドコモ）

- 2030年代に期待される強靱で活力のある社会を展望し、Beyond 5Gのユースケースや通信の要求条件と技術を明確化する。
- Beyond 5Gコンセプトを早期にとりまとめ世界的に発信し、ITU含む国際的議論に反映するとともに、国際的なイニシアチブを確立する。
- 多様な業界の意見を積極的に取り込みかつ発信し、あらゆる産業界にとって有益なBeyond 5Gコンセプトを作り上げ、国際競争力強化に貢献する。

ビジョン作業班

リーダー：小西（KDDI総合研究所/KDDI）、サブリーダー：永田（NTTドコモ）

- 2030年頃に想定される社会の検討、ならびに、2030年頃に商用化されるBeyond 5Gに求められるユースケースや要求条件に関わる検討を行い、白書にまとめること。

技術作業班

リーダー：中村（富士通）、サブリーダー：下西（NEC）

- Beyond 5Gで利用される技術の動向等について検討を行い、それらが利用者や市場に提供する機能・価値・果たす役割・期待などを明らかにし、白書にまとめること。

周波数作業班

リーダー：本多（エリクソン・ジャパン）

- 6Gに向けた周波数資源の国内外動向調査および検討を行い、白書にまとめること。

WP5D対応Ad Hoc

主査：菅田（KDDI）、副主査：武次（NEC）

- 白書分科会の議論結果を踏まえたITU-R WP5Dへの対応方針策定と寄書のドラフト作業等

- **1章 はじめに**
- **2章 トラフィックトレンド**
2030年頃に到来が予想されるBeyond5Gのモバイルアプリケーション、ユースケースからトラフィックの傾向を示したもの。
- **3章 通信業界のマーケットトレンド**
移動通信分野のマーケット動向、特に、スマートフォンや基地局等の通信インフラ設備のシェア構造の変化と、スマートフォン関連の構成部品の技術動向を示したもの。
- **4章 他業界から得られたトレンド**
現時点で世の中に存在するすべての業界における課題を洗い出し、課題解決案、業界としてあるべき姿や夢、さらには、Beyond 5Gに期待する性能や機能をまとめたもの。
- **5章 Beyond 5Gで求められるCapabilityとKPI**
4章の内容から、様々な業界での特徴的なユースケースを洗い出し、それぞれのユースケースで求められるBeyond 5Gの性能をまとめると共に、Beyond 5Gを象徴する図、6つの利用シナリオ、目標KPI（定量的、定性的）を示したもの。
- **6章 技術トレンド**
Beyond 5Gに求められる技術の動向について検討し、それらが利用者や市場に提供する機能・価値・果たす役割・期待などを明らかにしまとめたもの。
- **7章 おわりに**



第1.5版

- **5.2節 Beyond 5G を象徴する図と利用シナリオを追加**
- **5.3節 目標 KPI に関する図を追加**
- **記載内容の充実化**
 - ✓ 4.7節（自動車）5G のユースケースと通信要件を追加
 - ✓ 4.8節（機械）本文の更新
 - ✓ 6.1.3.2節 電波伝播に関連する研究動向と成果の追加

第2.0版

- **4章（他業界から得られたトレンド）全面的に読みやすさの向上、記載内容を充実化**
 - ✓ 各業界の節構成の統一、まとめの節を追加
 - ✓ 各業界のBeyond 5Gの活用例とCapabilityの表を追加、Beyond 5Gを活用した姿を示す図の形式統一・追加
- **6章（技術トレンド）主に、下記の項目について記載内容を充実化**
 - ✓ 6.1.3.1節 国内外の周波数利活用検討動向に関する記載を追加・更新
 - ✓ 6.3節 トラスト確保技術（セキュリティ、プライバシー、信頼性、レジリエンス（耐性））に関する記載を追加・更新
 - ✓ 6.6節、6.6.1節、6.6.3節：ネットワーク機能とコンピューティングリソースの最適融合、ネットワーク自律運用に関する記載を追加・更新
 - ✓ 6.6.4節：耐障害性に関する記載を新規追加

- 本白書は、通信業界だけでなくあらゆる業界をまたがり、産学官で未来のビジネス創出や社会課題解決の検討を推進する上で有益な情報を多く含んだものとなっている。本白書が日本としてより良い未来社会を創造し、グローバルな活動を推進するための一助となることを期待する。
- 白書分科会では、本検討結果をベースに、ITUや3GPPにおける周波数調整や標準化活動、ならびに他業界や産学官での協調関係の構築に貢献する所存である。
- 今後、外部関係者・団体に対して、本白書の内容を訴求し意見交換する機会を白書分科会に頂けるようお願いしたい。

ご清聴ありがとうございました

